

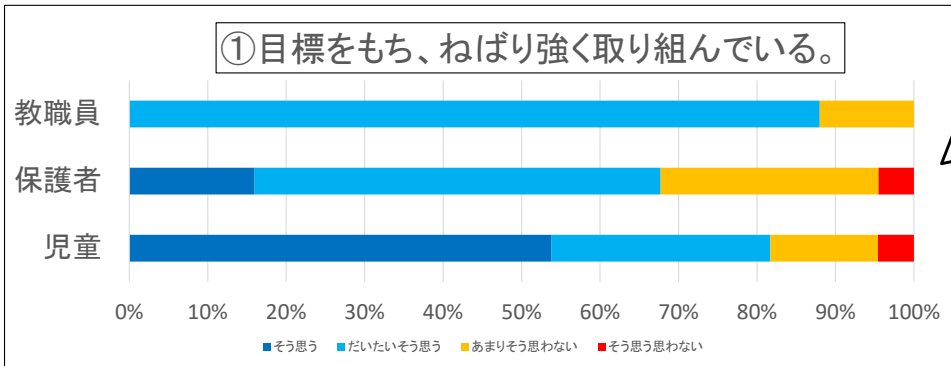
教育目標「ゆめをもって 自分らしく はつらつと生きる子」	
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ なかよく思いやりのある子 ・ わたしもあなたも健康な子 ・ かんがえを深め学び続ける子 ・ がんばりがきき、ねばり強い子

※ 児童アンケート⇒「わたしは」、保護者アンケート⇒「わたしの子供は」、教職員アンケート⇒「中川小の児童は」で書き出しています。児童用は、低・中・高学年用に分けています。

「そう思う」「だいたいそう思う」の合計が70%以上 ⇒ ○ 評価が良い項目
 「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計が30%以上 ⇒ ● 評価が良くない項目

⇒ ……今後の取り組み

A【学校教育目標について】



項目1「目標をもち、ねばり強く取り組んでいる」

[分析]

個々に、自分なりの目標をもち、努力する子供の姿が認められました。児童の自己評価は過半数が「そう思う」に対し、教員は「そう思う」がいなかったのは、1学期に引き続き「そう思わない」とする児童の実態を見ているからかと思えます。

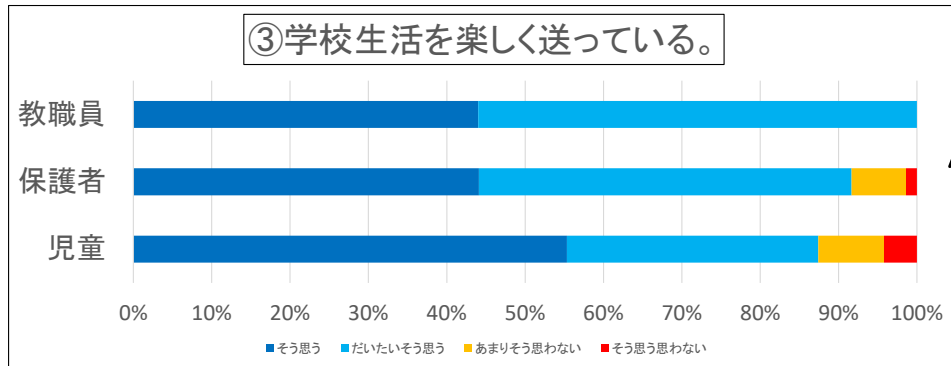
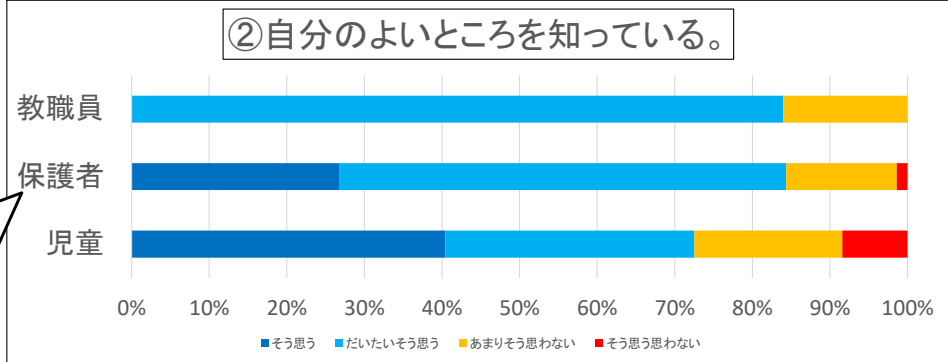
[今後の取り組み]

引き続き、各クラスで教室に掲示しているめあてや、キャリア教育のめあてなど、意識して生活することができるよう支援していきます。目標設定がうまくできない児童や、ねばり強く頑張ることが苦手な児童には、個別に適した指導

項目2「自分のよいところを知っている」

[分析]
 各クラスごとの取り組みの中で、意図的にスマイルカードを送り合ったり、先生からもらったりする中で、自分の「よさ」を自覚できる場面がたくさんありました。そういった活動が前向きな評価につながっていると考えます。

[今後の取り組み]
 引き続き、クラスごとに「新しい自分との出会い」ができる実践を積み上げていくことで、これまでに気付かなかった自分自身のよさ、価値に気付くことができると考えます。今後も、よい声掛けを意識して、子供たちのよいところを伸ばしていきたいです。



項目3「学校生活を楽しく送っている」

[分析]

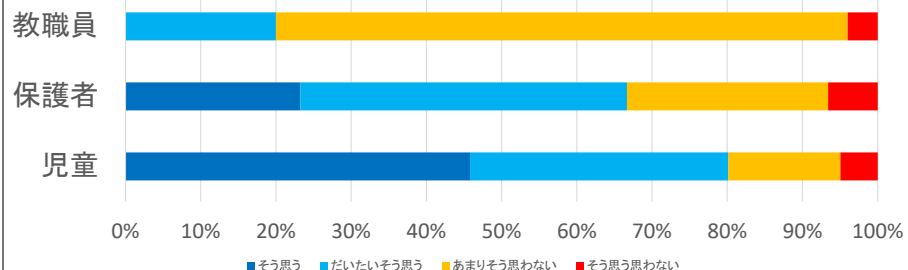
教職員は、1学期末に続き全員が肯定的な評価でした。日頃の取り組みの中で、子供たちが笑顔で楽しそうに過ごしている姿を近くで見続けていることがその要因かと思えます。児童の中には、1割近くが否定的な評価をしているため、その子たちを見逃さないようにする必要があります。

[今後の取り組み]

学校での生活の中で、当然苦手なことや、やりたくないことがあります。友達関係に悩むこともあるでしょう。それらの悩みを解消しつつ、「楽しさ」が勝るような日々の取り組み、授業改善等が求められていると考えます。

B【生活について】

④友達や地域の人に、自分からあいさつをしている。



項目4「友達や地域の人に、自分からあいさつをしている」

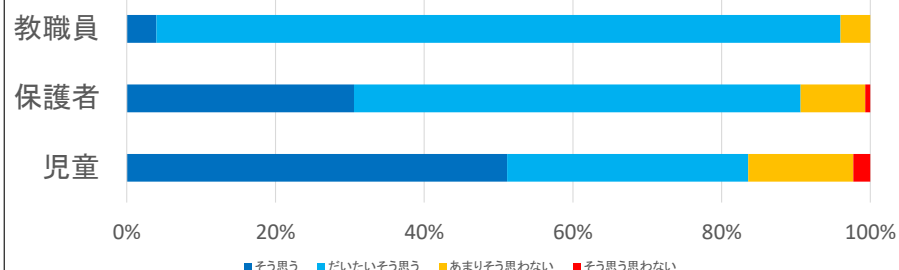
[分析]

1学期末のアンケート結果より、気持ちのよいあいさつができるように学校全体で取り組んだ結果、教職員や児童の評価が少し向上しました。しかし、保護者の評価に変動が見られなかったことから、家庭・地域でのあいさつにはまだまだ課題が残るようです。

[今後の取り組み]

今後も引き続き、学校全体であいさつをし合う環境をつくっていき、いつでもどこでも気持ちのよいあいさつができる児童を増やしていきます。

⑤思いやりの気持ちをもって生活している。



項目5「思いやりの気持ちをもって生活している」

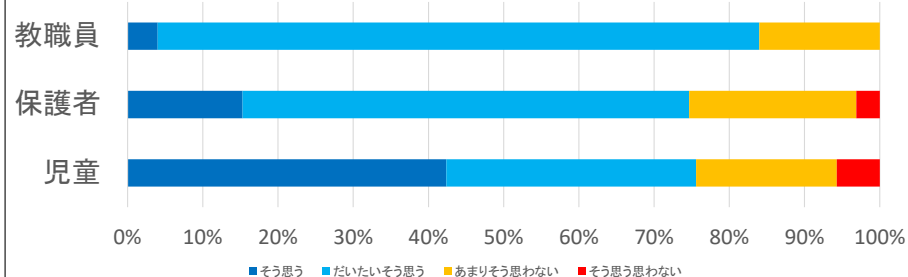
[分析]

全体的に肯定的な評価でした。1学期末より、少しずつ肯定的な評価が増えています。

[今後の取り組み]

引き続き、道徳の時間や学活の時間だけでなく、学校生活のあらゆる場面で思いやりの心を大切にした言動を認め、励ましていきます。相手のよさを認め、思いを大切にしようことで、思いやりの心が育まれると考えます。教師が率先して一人一人のよさを認めていくことで、あたたかい声掛けの輪を広げていきたいです。

⑥友達やクラス、学校のためになることをしている。



項目6「友達やクラス、学校のためになることをしている」

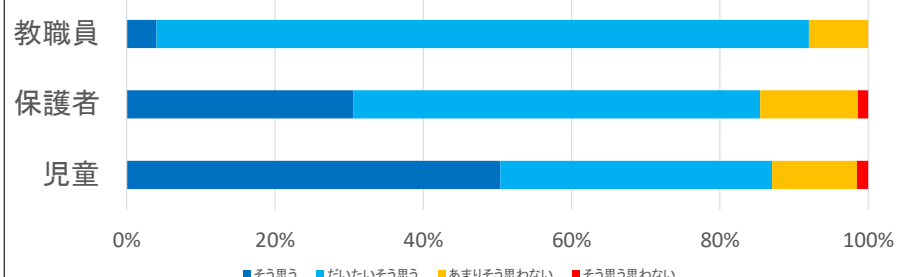
[分析]

1学期から大きな変化は見られませんでした。児童の自己評価から、約4分の1の児童が「自分はできていない」と感じているので、行為の大小はあれど、自己存在感・自己有用感を高め、あげられるような称揚・価値付けの方法を工夫していく必要があると思います。

[今後の取り組み]

児童が自己存在感を高め、進んで人の役に立つことに喜びを感じられるような雰囲気をつくっていくことが大切であると考えます。模範となる児童の行いが、クラス全体、学校全体に広がるような取り組み、声掛けを実施していきます。

⑦きまりを守って生活している。



項目7「きまりを守って生活している」

[分析]

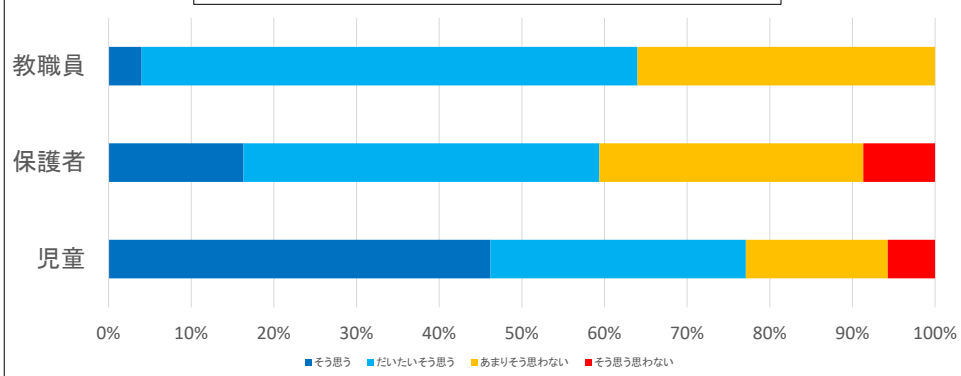
1学期末と比べ、教職員と児童は肯定的な評価が増えています。きまりを意識して生活する様子が多く見られているのかと思います。保護者の評価が小々落ちているのは、家庭で約束を守らない児童が増えているののかもしれません。

[今後の取り組み]

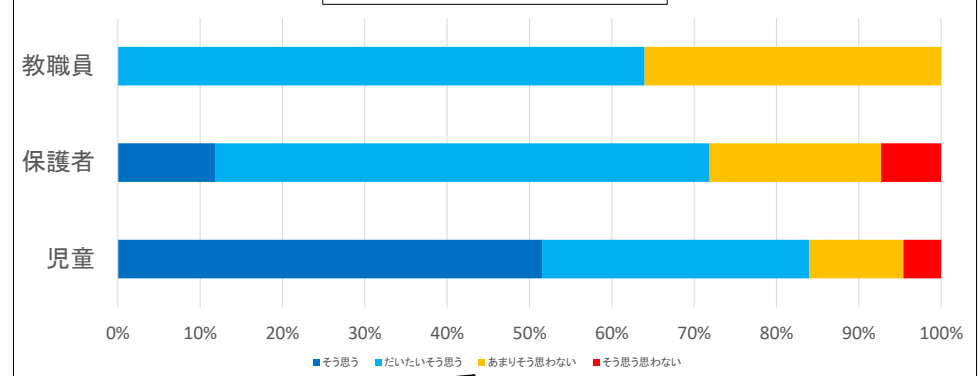
時と場に応じた約束事やきまりを大切にし、みんなが気持ちよく過ごすことのできる環境をいつでもどこでも守っていくことを意識させていきたいです。そして、きまりを守るのが当たり前な状態になるよう支援していきます。

C【学習について】

⑧家庭学習に自分から進んで取り組んでいる。



⑨学習をよく理解している。



項目8「家庭学習に自分から進んで取り組んでいる」

【分析】

1学期に引き続き、保護者の回答の4割以上が否定的な回答でした。家庭学習の取り組みの様子が、「自分から進んで」ではないということ(保護者にせかされてやっている)かと思えます。家庭学習の、保護者のかかわり方など、発達段階に応じて考えていく必要があるかもしれません。

【今後の取り組み】

学校でも、家庭学習を行うことの大切さや効果などを子供たち自身が実感できるような取り組みの工夫をしていきます。やるべきことを最後までやり抜くことの大切さも伝えていきます。

項目9「学習をよく理解している」

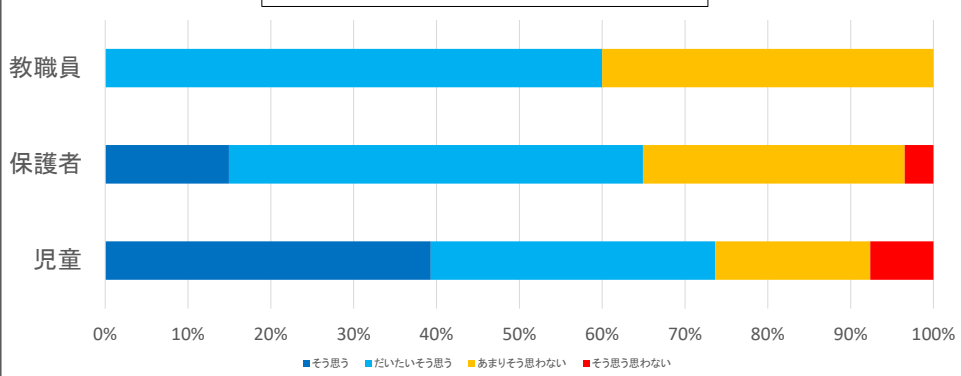
【分析】

保護者、児童の評価が1学期よりもそれぞれ上がりました。先生方の授業改善の取り組みにより、子供たちが「わかった」「できた」と実感する機会が増えていることが予想されます。

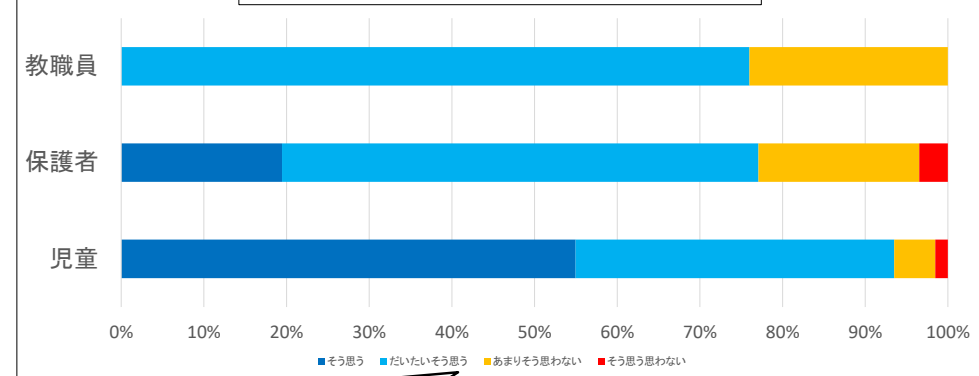
【今後の取り組み】

学校では、引き続き教員の授業改善により、児童が「わかった、できた」という達成感を得る経験を多く積み、学習への意欲を高めたり、進んで学ぶ姿勢を身に付けさせたりしていきます。家庭でも、お子様の頑張りを認め、意図的に励ましてあげてください。

⑩自分の考えを進んで伝えている。



⑪教師や友達の話をしっかり聞いている。



項目10「自分の考えを進んで伝えている」

【分析】

1学期の結果と比較すると、教職員の評価が上がっています。授業中の様子から、様々な場面で子供たちが自分の考えを表現する姿を認められていることが伺えます。発言、ノート、Chromebookを活用したアプリなど、様々な表現方法がある中で、子供たちは着実に「伝える力」を身に付けてきていると思います。

【今後の取り組み】

今後も、学校のあらゆる教育活動の中で、「自分の考えを進んで伝える」活動を意図的に組み、伝えることによる良さを実感させていきます。また、日々の生活の中で自分の思いを表現することの大切さを実

項目11「教師や友達の話をしっかり聞いている」

【分析】

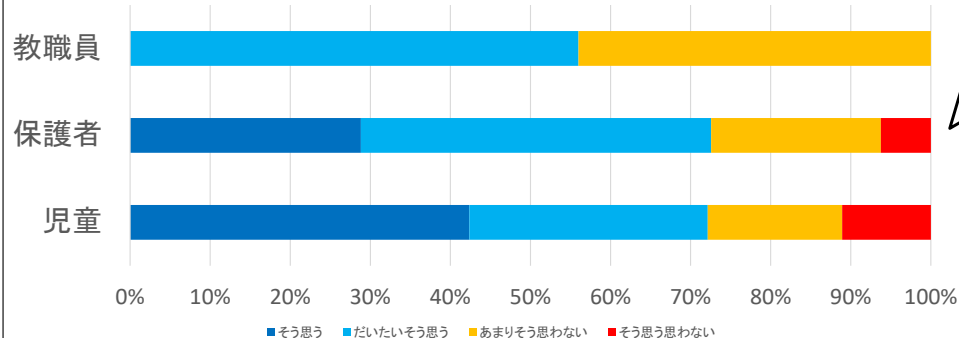
1学期末と同様に、全体的に高評価でした。教職員と保護者の評価は殆ど変わりませんでしたが、児童の評価は少し上がりました。全体的に肯定的な回答が多かったのは、日々の積み重ねによる成果かと思えます。

【今後の取り組み】

今後も、意識して「聞く」ことができるよう、継続して支援していきます。「目」と「耳」と「心」で、しっかりと話や発表を聞く(聴く)ことができる環境づくりを続けていきます。

D【健康・安全について】

⑫好き嫌いなく食べている。



項目12「好き嫌いなく食べている」

【分析】

1学期末と比べ、大きな変化はありませんでした。児童の「そう思わない」の割合が増えているのが気になります。だんだんと、残食量は減ってきているようですが、いろいろな食品をバランスよく食べられていないと感じている方が多いようです。

【今後の取り組み】

食育の観点からも、バランスよく、いろいろな食品から栄養を摂ることの大切さを伝えていきます。苦手なものでも、自分で食べられる量を食事であったり、自分の分をきちんと食べきる、といったことができるように支援していきます。

項目13「進んで運動したり、外で遊んだりしている」

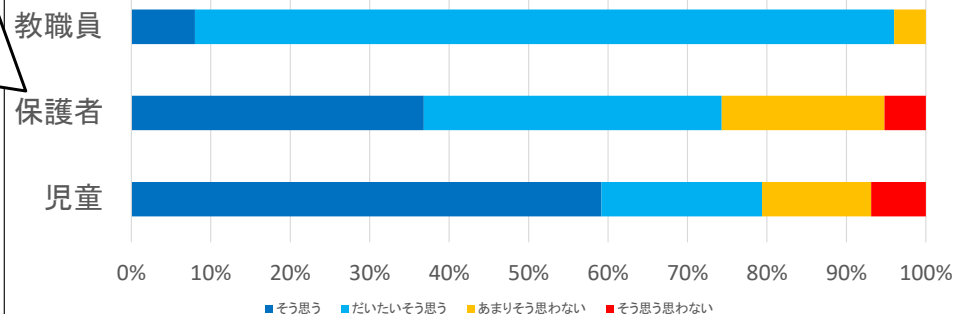
【分析】

個人差はあるにしても、休み時間には多くの児童が外で元気に遊んでいます。2学期末は寒くなってきたせいか、児童の評価が落ちています。

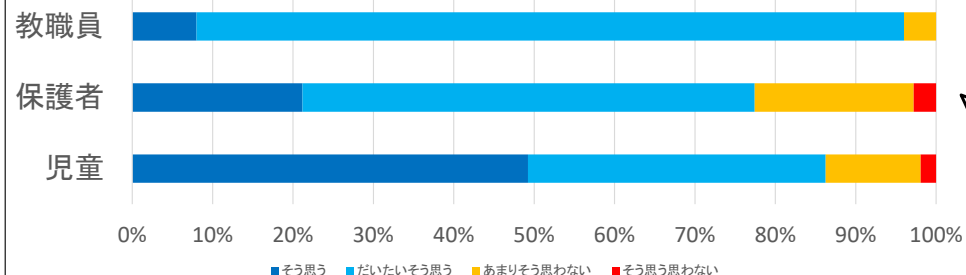
【今後の取り組み】

委員会からも、外遊びを勧める活動をしました。「外遊びカード」を作成した取り組み「ラン・ラン・ランニング(持久走記録会)」に向けて、休み時間も運動場を走る児童もたくさんいました。引き続き、外遊びのよさと呼び掛けながら、子供たちが安全に楽しく運動する環境を整えていきます。

⑬進んで運動したり、外で遊んだりしている。



⑭自分の体のことを考え、健康な生活を送っている。



項目14「自分の体のことを考え、健康な生活を送っている」

【分析】

自分で体調を管理する習慣が、コロナ禍の副産物としてついてきたのかもしれませんが、感染症予防や、熱中症予防など、個人で意識しなくてはいけないことを理解し、マスク・手洗い・うがいに加えて密を避けるなど、意識することができるようになった子供が増えていると思います。

【今後の取り組み】

今は、行動制限が緩和されているので、そういった予防・対策がいい加減にならないよう、注意してみたいと思います。